

2016年9月2日

西日本旅客鉄道株式会社
取締役社長 来島達夫 殿

日本共産党島根県委員会
委員長 後藤勝彦

三江線の存続を求める申し入れ

9月1日、貴社は三江線改良利用促進期成同盟会との話し合いの場において、江津市と広島県三次市とを結ぶ三江線を「廃止する」と表明されました。

今回の廃止表明に対し、住民からは「病院へ行くのに利用してきたが、なくなってもらっては困る」「地域の資源である鉄道がなくなれば地域の衰退に拍車がかかる」「地方創生が言われているが、これでは地域に元気が出ない」「JRは結論を出すのが早すぎる」など、不安と不満、失望の声が寄せられています。

公共交通は、住民の移動手段であることにとどまらず、地域の交流や経済活動を支える重要な役割を果たしています。このような公共交通の役割を鑑みると、その存廃は、地方の過疎化の進行や地域社会の高齢化対策、人口問題、環境問題に大きな影響を及ぼすものであり、採算性をもって安易に結論づけるべきものではなく、事業者、利用者、住民、自治体間での十分な議論を経て、理解と納得のもとに結論が出されなければなりません。

しかしながら、「廃止」とした貴社の決定は、あまりにも拙速であり、住民の理解も合意もなく、極めて不十分なものであると言わざるを得ません。

住民の交通手段として、まちづくりや観光振興の貴重な資源としての鉄道を維持し、改善・活用が図られることは、沿線住民の切なる願いであり、JRの歴史的経過、企業の社会的責任に照らせば、その存廃が事業者のみによって結論づけられることなど、到底容認できるものではありません。

以上の点を踏まえ、下記事項を要求します。

記

1. 住民の交通手段、地域の資源である三江線を「存続してほしい」との住民や自治体の願いに寄り添い、「廃止」とした結論はただちに撤回すること
2. 三江線を存続・改善させるとともに、地域住民と協力・共同し、鉄道を活用した地域振興策を推進するなど、公共交通事業者に期待される役割と社会的責任にふさわしい事業活動を積極的に展開すること

以上

2016年9月2日

島根県知事
溝口善兵衛 殿

日本共産党島根県委員会
委員長 後藤勝彦

三江線の存続を求める申し入れ

9月1日、JR西日本は、三江線改良利用促進期成同盟会との話し合いの場において、江津市と広島県三次市とを結ぶ三江線を「廃止する」と表明しました。

今回の廃止表明に対し、住民からは「病院へ行くのに利用してきたが、なくなってもらっでは困る」「地域の資源である鉄道がなくなれば地域の衰退に拍車がかかる」「地方創生が言われているが、これでは地域に元気が出ない」「JRは結論を出すのが早すぎる」など、不安と不満、失望の声が寄せられています。

公共交通は、住民の移動手段であることにとどまらず、地域の交流や経済活動を支える重要な役割を果たしています。このような公共交通の役割を鑑みると、その存廃は、地方の過疎化の進行や地域社会の高齢化対策、人口問題、環境問題に大きな影響を及ぼすものであり、採算性をもって安易に結論づけるべきものではなく、事業者、利用者、住民、自治体間での十分な議論を経て、理解と納得のもとに結論が出されなければなりません。

しかしながら、「廃止」としたJR西日本の決定は、あまりにも拙速であり、住民の理解も合意もなく、極めて不十分なものであると言わざるを得ません。

住民の交通手段として、まちづくりや観光振興の貴重な資源としての鉄道を維持し、改善・活用が図られることは、沿線住民の切なる願いであり、JRの歴史的経過、企業の社会的責任に照らせば、その存廃が事業者のみによって結論づけられることなど、到底容認できるものではありません。

以上の点を踏まえ、下記事項を要求します。

記

1. 住民の交通手段、地域の資源である三江線を「存続してほしい」との住民や自治体の願いに寄り添い、JR西日本に対し「廃止」とした結論の撤回を求めること
2. 三江線をはじめとする地域公共交通を、守り発展させる県としての姿勢を明確に打ち出し、三江線の存続・改善に向けて最善を尽くすこと

以上